

令和6年度 第1回倉沢人形歌舞伎調査委員会

1 開催日時

令和6年11月15日(金) 午後2時～午後3時45分

2 開催場所

石鳥谷総合支所3階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 7名

大谷津早苗委員（昭和女子大学教授）

木戸口俊子委員（岩手県立盛岡農業高等学校指導教諭）

中村良幸委員（花巻市文化財保護審議会委員）

中嶋奈津子委員（花巻市文化財保護審議会委員）

菊池峰雄委員（倉沢人形歌舞伎保存会代表）

下林育男委員（倉沢人形歌舞伎保存会事務局長）

松橋香澄委員（花巻市博物館学芸係主事）

(2) オブザーバー 3名

山中千紗子（文化庁文化財第一課芸能部門文化財調査官）※リモート参加

橋本かおる（文化庁文化財第一課芸能部門文化財調査官）※リモート参加

佐藤郁哉（岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課社会教育主事補）

(3) 事務局 3名

文化財課 上野剛課長、伊藤真紀子課長補佐、佐々木勝也係長

(4) 傍聴者 なし

(5) 報道関係 なし

4 内容

(1) 協議

ア 倉沢人形歌舞伎調査事業計画（案）について

イ 調査報告書の構成（案）について

ウ 調査方針について（調査項目、調査方法、日程確認等）

5 議事録

（1）開会（進行：伊藤課長補佐）

〔倉沢人形歌舞伎調査委員会成立報告 委員7名中7名出席〕

〔オブザーバー3名を紹介〕

〔上野課長より委嘱状を交付〕

（伊藤課長補佐）

それではただいまから令和6年度第1回倉沢人形歌舞伎調査委員会を開催いたします。文化財課長の上野より挨拶を申し上げます。

（2）挨拶

（上野文化財課長）

皆様本日はお忙しい中、倉沢人形歌舞伎調査委員会にご出席いただきまして大変ありがとうございます。また皆様方におかれましては、平素から当市の文化財の保護と活用事業にご理解ご協力、ご指導を賜っておりますことに感謝申し上げます。

さて、委員の皆様方におかれましては本委員会委員への就任を快くご承認いただきましたことを、改めまして感謝申し上げます。ありがとうございます。本日は調査委員会の第1回目の会議ということでございますが、委員の任期は2年間でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

現在、本市には神楽や鹿踊り、念仏踊りなどといった国・県・市の指定になっている無形民俗文化財が52ございますが、ご案内のとおり倉沢人形歌舞伎につきましては明治27年に創始され、東和町倉沢地域において現在まで倉沢人形歌舞伎として伝承されてきている人形芝居でございます。昭和34年には旧東和町の文化財第1号として指定されて、その後、平成7年には岩手県の無形民俗文化財に指定されてございます。また平成31年の3月には国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財、いわゆる国選択に選択されておりまして、民俗芸能等で特に重要なものであり、記録・保存が必要であるとされておりますことから、今回、本調査委員会を立ち上げて調査に取り組んでまいろうとするものでございます。

本日は委員長と副委員長の選出をお願いした後に、今後の調査の計画、調査方針など

についてご協議いただく予定になっておりますけれども、委員の皆様方にはそれぞれご専門の見地のみならず、多様な観点から忌憚のないご意見を賜りながら、今後の調査事業を進めてまいりたいと考えてございますので、どうぞよろしくご意見申し上げます。本日はどうぞよろしくご意見いたします。

(3) 委員長選出

(伊藤課長補佐)

本日は当調査委員会第1回目の開催となることから、委員長および副委員長の選出を行います。お配りしております資料、倉沢人形歌舞伎調査委員会設置要綱の第4条第1項の規定により「委員会の委員長及び副委員長各1名を置き、委員の互選により定める」とありますことから、委員の皆様で委員長と副委員長の選出をお願いいたします。

初めに委員長の選出をお願いいたします。どなたか委員長の選出についてご意見ございますでしょうか。委員長について、もしよろしければ事務局案を提示させていただいてよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。それでは事務局案といたしまして、委員長に大谷津早苗委員をご提案申し上げます。いかがでしょうか。

(拍手)

ありがとうございます。拍手をもちまして委員長に選出されたこととさせていただきます。

それでは次に副委員長の選出をお願いいたします。どなたかご意見ございますでしょうか。これについても事務局案でよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

それでは事務局といたしまして副委員長に中村良幸委員をお願いしたいと存じますが、皆様これについてはよろしいでしょうか。

(拍手)

拍手をもちましてご承認されたこととさせていただきます。どうぞよろしくご意見いたします。

ここで、委員長に選出されました大谷津委員と、副委員長に選出された中村委員より一言ずつご挨拶をいただききたいと存じます。はじめに大谷津委員どうぞよろしくご意見いたします。

(大谷津委員長)

大谷津でございます。改めましてどうぞよろしくお願ひいたします。この度は委員長を拝命し、多少戸惑っておりますけれども声掛けしていただき、こうやって何かの記録保存のために皆さん頑張っておりますお姿を見て、何とか協力できないかという気持ちで皆様方のお仕事に敬意を表するとともにそういう気持ちで僣越ながらお引き受けした次第でございます。これからは皆様方にいろいろご支援をいただきながら倉沢人形歌舞伎にはどういう特徴があるのか、どういう価値があるのかということ、皆さんと一緒に考えていけたらと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

(伊藤課長補佐)

次に中村委員、お願ひいたします。

(中村副委員長)

副委員長ということで、拝命いたしました中村と申します。ついこの間、石鳩岡・土沢神楽の国選択の報告書を作ったばかりで安心しておりましたが、また続けて委員になることになりましたのでよろしくお願ひしたいと思ひます。ぜひ倉沢人形歌舞伎の方も、良い報告書・記録映像ができればなと思ひますので極力協力させていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(伊藤課長補佐)

ありがとうございました。それでは協議の進行につきましては本調査委員会設置要綱第4条第2項の定めにより委員長にお願ひいたします。大谷津委員長、委員長席にご移動いただきまして進行をお願ひ申し上げます。

(4) 協議

ア 倉沢人形歌舞伎調査事業計画(案)について

(大谷津委員長)

それでは早速ではございますが議事進行に入りたいと思ひます。不慣れではございますがどうぞご協力のほどよろしくお願ひいたします。

本日は協議項目が3つございます。初めに(1)資料No.1の「倉沢人形歌舞伎調査事業計画(案)について」事務局より説明をお願ひいたします。

[佐々木係長から配布資料の確認]

[佐々木係長から資料No.1の説明]

〔協議〕

(大谷津委員長)

ご説明ありがとうございました。今、事務局からの説明がありましたが、ここから協議に入りたいと思います。今の事業計画案について皆様に内容をご確認いただき、誤っている部分がないか、構成等は問題ないか加除修正する部分がないか、その点をお諮りしたいと思います。いかがでしょうか。概要、調査目的、調査体制、あとは調査計画になりますけれどもいかがでしょうか。保存会の人数等ですね、菊池代表と下林さんいかがでしょうか。会員数など問題ございませんでしょうか。

問題ないということでご了解いただきました。その他委員の方々からご意見等ございましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

(意見等なし)

(大谷津委員長)

調査計画は本年度から始まって、令和7年度、8年度、9年度で報告書を刊行するという予定になっております。それを以降、10年度から12年度に映像記録の事業を行う計画です。なかなかの長丁場な計画でございます。非常にボリュームで先生方にはいろいろお願いをすることも多いかと思っております。これでよろしければ、進めさせていただきますと思います。

(承認)

イ 「調査報告書の構成(案)について」及び、ウ 「調査方針について(調査項目、調査方法、日程確認等)」

(大谷津委員長)

次に2つ目に入りたいと思います。2つ目の調査報告の構成、資料No. 2ですね。併せて3つ目の資料No. 3の調査方針について審議をしたいと思っております。事務局より説明をお願いいたします。

〔佐々木係長から資料No. 2、資料No. 3の説明〕

〔協議〕

(大谷津委員長)

ご説明ありがとうございました。なかなか盛りだくさんで、資料No. 2のまず調査報告書の構成案というところから始めたいと思っておりますけれども、今日決めなくてはいけな

いことはこの報告書案をどこまで決めるのか、決定で動かないものとするのかということも含めてこれをまず1つ決めるということです。

あとは資料 No. 3 の調査項目に挙げていただきましたように、調査項目は報告書の章立てと連動しておりますので誰がその章を書くのか、担当するのかということと、調査担当ってというのは結びついているわけですからそこも含めて執筆担当というのを決めた方がいいと思っております。あとは音楽的なところは佐々木さんと電話で話している中で、私が知らないことなのですが、構成要素の中に1つ入っていますからどのぐらいの扱いにするかということですね。地元の個性がある節付けであったり、伝承があるならば、やはり違いをはっきりさせるために音楽の専門家が必要になってくるのではないかと考えたのですが、このあたりも現状を教えてください必要かどうかという判断をしていくことになるかと思っております。あとはそれに基づいて予備調査的にも調査をスタートするというものですから、例えば文書(もんじょ)の調査に入るとか、用具類の調査に入るとか、そういったスケジュールをあらかじめ確認したいというような、事務局のご意見であったかと思えます。この3点4点によって、そのあたりをここから始めていきたいと思っております。

まず報告書の構成案ですけれどもいくつかの選考の報告書をご参考にされて1章「総論」、2章「倉沢人形歌舞伎の歴史」、3章「倉沢人形歌舞伎の系譜」、4章が「構成要素」、5章で「演目と脚本」という構成をお考えいただきました。その中に何を盛り込むかということが資料 No. 3 の調査報告に挙げられているところが、これが具体的なところだろうと理解しております。例えば2章の倉沢人形歌舞伎の歴史のところには、倉沢人形歌舞伎の歩み、変遷、今の活動内容とか、あとはその倉沢人形歌舞伎を育んだこの土地の風土というようなところを盛り込んでというように想定されていると思えます。

また3章の倉沢人形歌舞伎の系譜のところでは、先ほど説明にもありましたけれども、水押人形芝居であるとか近いところ、直接影響関係にあったということにとどめるのか、もう少し広い範囲まで広げて調査をし、掲載をするのかということですね。4番目としましては構成要素、人形の作り道具類、衣装とか楽器も含めて、後はどのように操るのかというその演技の操法の記録ということです。あとは舞台も大事な要素ですから舞台も測って、図に起こしてということになるかと思えます。台本類、文書(もんじょ)類というのがどのぐらいのボリュームがあるのか教えてくださいということになると思うのですが、すごくたくさんある場合はどれを選択して掲載をするのかとか、

今の主流のやり方ですと文字として印刷ページとして載せないものはデータで CD に入れてそれを付けるのかということもあります。

もう1つ最近の事由では、演じているところの舞台の映像などを映像資料として CD にして報告書につけるということを多々行っているようです。そういったものも含めて決めていかないといけないです。予備調査としてどのぐらいものがあるのかという量的な把握からだと思うのですが、そのように連動していますので、どの章を誰が担当するか、というところでまず1つ決める必要があると思います。

5章構成になっておりますが、猿倉人形芝居の例で言いますと、第6章のところに「まとめと今後の課題」という締めめの章があります。今回、それは案としては出されていないようです。そこをどうするかそういう意図があれば、協議のポイントで進めるのですが、このあたりも協議の必要があると思っております。この構成案は中村先生とご相談されて決められたということですので中村先生に、誰にどれを担当してもらうかというような腹案があれば、お聞きした方がいいかなと思うのと、今の説明に加えて先生がお考えになられたことなどをご教示いただければと思いますがいかがでしょうか。

(中村副委員長)

私は細かいこの調査報告書の構成案までは口を出しておりませんので、それはわかりませんが、ただこの構成であれば、倉沢人形歌舞伎の系譜の中に県内と市内の人形芝居の要素は入れた方がいいと思っております。ここでは水押しが入っていませんが、栗石とかありますし花巻市内でもいっぱいあるので、その系統は木戸口さんが前に展示とかで調べていらっしゃると思いますのでその辺は木戸口さんをお願いした方がいいかなと思っております。

前からずっと思っていたのですが、倉沢さんのところは文書(もんじょ)類というか、脚本とかものすごくいっぱいあったとおもいます。あれは歌舞伎か何かのセリフとか、語りでしょうか。あれがどの辺までリストを作られているかが、知っている方はおられますか。あれがものすごい量だったのでちょっと気になっていたのですが。

(下林委員)

昔の台本は筆字で書いてあり、なかなか自分たちで読むことができず、それを前代表の菅野芳治さん、そして倉沢人形歌舞伎の先輩の古文書に詳しい菊池金吾さんという方が、うまく訳して今風にして私達のわかりやすいようにしていただき、それを私が今風の台本に変えたということです。ですから昔の台本よりは、現代風の流れになっております。

(中村副委員長)

多分報告書であれば、その古い方を読んで、それをつけるというのがやっぱり一番資料としてはいいので、ただ引き出しを見てもすごい量が入っていましたのでそれが気になっておりました。何冊あるとか、そういうリストっていうのを作られた方がいいと思います。

(下林委員)

なかなか読めないです。

(中村副委員長)

あれは歌舞伎だけのものなのか、あるいは人形芝居の方もみな入っていますよね。

(下林委員)

かなりの歴史ありますからね。130年ぐらいですから、私達はちょっと読めない字とか、そういうのも筆字で。台本が本当にいっぱいあります。

(中村副委員長)

ものすごい量がありますのでそれを誰が担当するか、多分それが一番大変かなという気はしております。ちょっと気になっています。

(大谷津委員長)

ありがとうございます。たくさんの台本とか文書(もんじょ)類があるということですので、ただ一部だけ載せるというか一部だけ調査をしてというわけにはいかないと思います。やはり報告書の精度を上げるためには、ここでこの機会に載せるか載せないかはまた取捨選択するとして、調査はやっぱり全部を調査してリスト化をするということはおこなわないといけません。リストは載りますので。ナンバリングとかしてリストはできると思いますから、人形芝居とか歌舞伎とか分けずに、ぜひ全部調査し少し時間がかかるということと、1人では多分できないので数人の体制ですということだと思います。

八王子の経験を申しますと、八王子は予備調査に2年とか3年かけました。西川古柳座にもやはりほぼ同じぐらいのたくさんの資料があって、それを市の担当者和そのためにアルバイトを雇って数年かけてリスト化をして、その中で注目すべきものをピックアップして。古いところから新しいところまで出てきますとやはり流れがはっきりして、思わぬことも出てくると思います。だからやはりそれは時間をかけてやっていく必要があるのだらうと思います。ですので、これは少し時間がかかると思います。そうすると、この構成要素は相当ですので1人では担当しきれないところです。もう人形の頭も40、

50 とおそらくあると思いますし、これも全部載せる感じでしょうか。

写真撮影をして計測をして載せる。何の役に使うのかという聞き取りもとっていく。道具類・衣装もそうですし採り物などもそうです。これも小さくてもいいから全部をリスト化するっていうことをした方がいいと思います。操法っていうのもこういうふうを使うということを動画で載せる方法もありますし、動画はやっぱり1回見なければいけないので、写真で構えとかこういうふうに動かして何を表現するとかというのを、部分的に載せていくというような操法の載せ方があるかと思うので、文書(もんじょ)と人形・道具類と一緒に1人の人でというのはちょっと難しいと思っております。

あとは音楽的なところも今菊池さんに聞いたら、保存会の人やっぱり語っているということなのでちょっと聞き書きをしたりとか、実際の語っているところは映像とか動画を載せるのですが、少しやはり聞き書きとか、音譜にとるとか何か少し動きをしないといけないのではと思っています。ですから、これは1人では厳しいかなという印象です。執筆担当を分けて、あとはそれぞれ補助の調査員と一緒に調査をするという形が現実的かなと思います。先生方がいかがでしょうか。系譜のところは中村先生から、これまでの経験も知識もあるということで木戸口先生をご提案いただいたので、3章の系譜のところは木戸口先生にご担当いただくということでよろしいですか。お願いします。

(木戸口委員)

そうですね、令和2年度の時点で私の方で調査してわかった部分につきましては、一度資料にいたしました。それぞれどれぐらい残っているかといったところまではある程度やっておりましたが、それで済まないと思いますので、その後もう一度ということで、1人だとちょっと心配ですのでどなたか一緒にやっていただければありがたいです。

(大谷津委員長)

そうですね、木戸口先生とどなたかで調査を担当されて執筆主担当は木戸口先生に書いていただくというような体制でいけたらいいと思いました。誰が木戸口先生と組むかという話になりますけど、まず1つはこれでいきます。

歴史のところはいかがいたしましょうか？歴史は比較のある程度定まったところかなと思いますけれども、やはり今までの情報をもう1回ここに載せるということでは進歩がないなと思っていて、もう少しいろいろ古いことを知っている人に聞き書きをして、何か新たな資料を加えて、これまで以上の何か情報をまとめられるのが一番いいだろうとは思いますが、あまりいろんな要求をしてしまうとみなさんがやりづらいということ

になって恐縮ですけれども、理想がそのように思いました。いかがでしょうか。歴史のところ構成要素はお2人かなというふうに思いますし、文書(もんじょ)のところはやはり5章では資料編ってということで理解していいですか。事務局としては、5章は資料編ですね。また別なのですか。

(佐々木係長)

猿倉さんを参考にしますと資料編というわけではなくて、それぞれの演目ごとに中身の解説といいますか、そういうものになってございましたので、それを一つの章として考えているところではあります。その良し悪しを含めてご協議いただければと思います。

(大谷津委員長)

脚本を載せて演目の解説を入れる、全脚本を全て載せていくということです。そうしましたら脚本は資料編として載せて、ここにその演目の解説を載せるということでもいいわけです。多分資料は膨大になるのではないかと思います。

(伊藤課長補佐)

そうですね、ほぼ演目とあらすじなどをまとめて紹介しまして、詳しいセリフの言い回しですとか1つくらい猿倉では載せていましたので、そこに載り切れない分を資料編の方で補足というような構成を広げてというように考えております。

(大谷津委員長)

今上映されている演目はもう決まった演目があるようなので、それにするか、今はできないけれど、かつてはやっていたという題目も残っていて、それが出てくる可能性はあるわけです。そこでちょっと取捨選択をするか、内容はそういう内容にするにしても、まず資料調査でボリュームが見えないってところが何とも選べないというところです。こんなふうにペンディングにしておいて、大筋決めておいてそこから少し構成は練り上げていくということでもよろしいですか。協議の度に確認をしていく形にさせていただきたいと思います。

もう1つ私が提案しました最後のところに、まとめと今後の課題というのは要るのではないかなと思うのですが、これは事務局から何かご説明ありますか。

(佐々木係長)

想定はしていなかったもので、委員長の考えどおりでして、そういうことが必要だという部分で、失念してございました。

(大谷津委員長)

第6章でまとめと今後の課題を挙げるということで、そうしますと6章構成になります。今のところ決まっているのは3章の木戸口先生がしてくださるということだけで、あとは中村先生いかがいたしましょうか。

(中村副委員長)

4章は、やっぱり倉沢の方々にお手伝いいただかないとわからないので、4章の構成要素のところは菊池さん、下林さん達にご協力いただいてまとめるということできないと思いますので、全面的に倉沢人形歌舞伎さんのお世話になりながらまとめるのがいいと思っております。そのまとめ役は後で決めますけど、一番お手伝いいただきたいのは第4章の構成要素だと思いますのでその辺はぜひご協力をお願いしたいと思います。

(大谷津委員長)

保存会の菊池さんと下林さんには中心的にお願いすることになると思いますけどそれを文章化してまとめていくどなたかをここで決めますか。事務局はここで決めてほしいと言っているのですが決められますか。

(中村副委員長)

話を聞いてみてからでも。前にも何回か何かまとめたのを作っていませんでしたか。なかったですか。

(伊藤課長補佐)

ざっくり、操法とか簡単にまとめた資料は配布しました。添付していますけどあるだけです。報告書の一部抜粋みたいものを今回つけています。

(中村副委員長)

聞き取りでまとめるのか、あるいは人形歌舞伎のどなたかに書いてもらうかなんですけど。やっぱりまとめた方がいいですね。

(大谷津委員長)

文章として説明するかどうかは別として、資料として写真は載せないといけないし、文章も載せないといけないと思うのです。そういうコントロールというか差配みみたいなものは経験があるので私が立ち合わせていただくとか、ご助言を申し上げるということはあるかなと思います。載せ方に関しては。

(中村副委員長)

それであれば多分この辺はどっちかっていうと写真の方がそうだと思いますので、ご協力お願いしたいと思います。

(大谷津委員長)

私とあといろんな先生と話し合っというところになると思います。

(大谷津委員長)

中嶋先生と中村先生と松橋さんの3人でということで。そうしましたら4章の構成要素に関しては、あとは文書(もんじょ)、台本は出たところということにしまして、一応これは下林さんと菊池さんとあとはこちらの3名でご担当いただくということで決まったということにさせていただきます。あとはその歴史のところですが、あと木戸口先生と誰かコンビを組んでくださる方。歴史はどうしましょう。

(中村副委員長)

歴史は系譜の中に入っているのではないかと、どうでしょうか。倉沢人形歌舞伎100年という本が出ていましたので、文章的にはこれほぼ聞き取りです。

(大谷津委員長)

重なると言えば重なります。第2章と3章が。

(中村副委員長)

系譜と歴史をどう区別していくかを分けて倉沢だけ取り上げるのか、あるいは系譜の中に入れてしまうかによってはだいぶ違います。

(中嶋委員)

歴史の中に系譜が入ってくるのでは。

(中村副委員長)

歴史をやって、倉沢は倉沢で作って、あとは県内とか市町村の他の人形芝居の系譜があればそれをつけてということになるのかと思いますし、倉沢の場合は水押人形芝居から教わって、そちらの方からもちょっと付け加えながら。そうすると系譜になってしまいます。だから歴史の中にみんな系譜とか入ってしまう気がします。

(大谷津委員長)

事務局案としてはどういう区別をされたのかというところですけども、1つにしてもいいかと思います。1つで大丈夫ですか。わかりましたそうしましたなら、2章と3章は1つにまとめるということで章題は歴史にしますか、それとも系譜にしますか。歴史でいいですか。中に項目として入れたということで、わかりました。ありがとうございます。章のタイトルとしては「倉沢人形歌舞伎の歴史」にして系譜を中に盛り込んでもらうということで、こここのところ木戸口先生ということになるわけですけども非常にボリュームになってきますけど。よろしいですか。誰か補助が欲しいということであ

れば1人はちょっと。またこちらの先生方に随時動いていただいとすることにします。

(木戸口委員)

文書(もんじょ)をみても、前に一度見させていただいた時には「嵐美鳥」っていう名前で文書(もんじょ)があったので、多分その歌舞伎の頃のものもあると思いますし、水押とそれから江刺の広瀬の人形芝居のところの脚本というのもを見せていただいた時に、水押の人の名前が入った文書(もんじょ)があったということで、その文書(もんじょ)の中にヒントというかその系譜のリストがあると思います。そういったところの情報を常に共有する形でやらせていただきます。

(大谷津委員長)

本当に今回の文書(もんじょ)調査で新たに出てくる関係性とか見えないところが見えてくる可能性が非常に大きいので、ぜひ木戸口先生にもそういうものを活用して書いていただければ、しっかりしたものができてくるのではないかと思います。やはり近隣のものとの関係はすごくはつきりさせた方がいいです。やはり証拠になるのが、その台本であったり、メモであったり、書いたようなものなので。そうするとやはり影響関係もはつきりしてきますし、人形歌舞伎っていうところに一つ特徴があるのだと思うので、そういったところの繋がりをはつきりさせて人形歌舞伎の成立を見える形にできたらいいと思います。

こういう形の人形芝居には山形の山辺人形とかいくつかこういうものがあって、それも使い方もどのように入ってきたのかとかいろいろ考えたりもするので、もしかしたらもうちょっと広い範囲で見る必要があるのかとも思ったりもします。少し視野を広げてといいますか見ていただくと更にありがたいと思います。また木戸口先生にいろいろ教えていただいて、よろしくお願いします。

そうしますと、大体決まってきましたが、5章にあります「演目と脚本」も脚本は資料として載せるにしても演目の解説であるとか見どころはやはり保存会の方々に書いてもらった方がいいかと思うのですが中村先生いかがでしょうか。

(中村副委員長)

いいと思います。

(大谷津委員長)

なので、ここはどの演目を載せるかということはこの委員会で決めていくことになるかと思いますが、その記事に関しては、菊池さんとか下林さんとか保存会の方にご執筆いただくということでもよろしいですか。

〔菊池委員・下林委員 快諾〕

(大谷津委員長)

そうしましたら、総論とあと6章のまとめと今後の課題ですけれども、おそらく私が呼ばれたのは総論を書くようにということで呼ばれたのだと思います。それは一応覚悟して担当させていただこうかと思えます。まとめはどういたしましょうか。ここで特徴をまとめるっていう形だと思えます。猿倉の例を見ても、猿倉人形芝居の特質ということをも1節に持ってきて、あとは現代における問題点を今後につなげるという観点からまとめているのが第2節なのではないかと思えますけれども。

(中村副委員長)

今後の課題みたいなものは書かないでというか、逆に構成員の方々に神楽の調査報告の時はですね、構成員の方々の若手とベテランの人たちとか、古老の人たちからの話を聞きながら、課題とか今後の目標とか、そういうのをまとめたような気がするので、そういうまとめ方でもいいのではないかという気はします。例えば人形歌舞伎をやられている若手の方々の意見とか、古くからやっていたりしゃる方々からの問題点ですとか、若い人たちがこうやっていきたいとか、そういうところを皆さんに聞き取りしながらまとめていくような形がいいと感じており、その方がリアルでいいという気がします。

(大谷津委員長)

そうしましたらそういう形で中村先生がまとめて下さるということでよろしいですか。あとはこれまでの倉沢人形歌舞伎の芸能としての特色っていうのが第1節にまとめられるべきかと思えますが、これは総論と対応するっていう形で大谷津が担当するという形でよろしいでしょうか。

今ふと浮かんだのですが、伝承組織とかそういうのって普通報告書とかに大体出てくるんですけど、それはどのあたりに入る感じでしょうか。最後の課題というか第2節のところ、現在の伝承組織っていうのを載せて今の人の声を乗せるっていう形になりますでしょうか。伝承組織と今のその活動状況、2024年、2025年ぐらいの活動状況というものも1章分ぐらい必要かと思えます。

(中村副委員長)

猿倉の時は多分第4章に載せていたと思えます。その分が抜けています。

(大谷津委員長)

そうですね、その部分は必要ですよ。今こういう形で組織があつてというところです。

(伊藤課長補佐)

そうです、第4章の方に載っています。中村委員のおっしゃるとおりです。

(大谷津委員長)

猿倉の第4章にあたる部分を倉沢では第3章にして「歩みと興行と伝承組織と現状」
そういう形で今の現状を記述するところを第3章に設けるといことで、事務局よろしい
でしょうか。

(木戸口委員)

猿倉の場合は歩みとそれから興行の現在の様子というお話でしたけれども、その歩み
自体は今回調査項目の②の中に入っているわけですが、そういった部分について
はあくまでも第3章では現在の状況という形での記述で、歩みが入らないということ
で捉えてよろしいでしょうか。

(大谷津委員長)

どうでしょうか。歴史と被りますが。

(木戸口委員)

若干ね。もし現在の状況はまた別にするのであれば、この歩みというかその歴史の中
で、これ以降のことについては第3章でということが一応あれば、それはそれで済むと
思います。

(大谷津委員長)

そうですね、その時代でちょっと区別してもらえますか。保存会としての今の直近の
話にして、古いところからずっと歴史で扱っていただきたいです。

(木戸口委員)

実際は途中で報告書をまとめる段階になった時には、ここまではこちらでという形も
あります。

(大谷津委員長)

保存会ができたのはいつごろでしたか。町の指定は結構古い時になっていますが。

(佐々木係長)

昭和34年です。

(大谷津委員長)

そのあたりからは歩みの方でいいと思います。明治から戦前ぐらいまで2章で、現代
と近代とそこで分ければよろしいでしょうか。他に先生方何かご意見ございますか。よ
ろしいでしょうか。

(中嶋委員)

すいません確認ですけれども、歴史という部分でこの人形歌舞伎さんの今までの歴史的なものを、そしてその中にその流れの中で系譜が入ってくるということで、そして現在における倉沢人形歌舞伎という項目はまた別項目でということです。それこそ神楽で一緒にさせていただいた時に、多分最初で最後の記録集になると思うので、座員の方ですとかそういう方々を何かしらの形で皆さんを登場させました。それは良いことだと思います。前の時はインタビューというか、うちでお1人おひとりについて、それを現在の取り組みも含めて載せてまとめていただいたかと思うのですが、今回も可能ならばそういう企画があっても、ページに特に何か問題がなければ皆さんからというのもいいと思います。何人くらいいらっしゃいますか。

(菊池委員)

12人です。

(中嶋委員)

あとは構成です。保存会の現代の構成組織をどうするか、保存会という形になる以前にも、おそらく頭という座をとっている方がいらして、案外決まったおうちの方とか、決まった稽古場の人ですね、そういった方達がいたのではないかなという気がしますので、そういうところも多分聞き取りで辿れそうです。多分こういうような人たちがやってきて昭和の何年に保存会ができて、現代に結びついてきたということがわかると思います。

(大谷津委員長)

貴重なご意見をありがとうございます。私も聞き取りは非常に大事だと思っていて、こういうせっかくの機会ですからどんどんやはり聞いた方がいいと思います。今、中嶋先生がおっしゃってくださったように、その保存会の前の組織立ってはいないかもしれないけど何かあった劇団がどうだったのか、どういう人が中心となってやっていたのか、そういったことが、今知っている人も少なくなっていく状況ですから、この機会にぜひ先生方にご足労いただいて聞いていただければと思います。それをぜひ反映して、歴史とか、現状であるとかに書き込んでもらうとこの報告書の価値がわかると思います。

あとはもう1つ、今の座員の方々にぜひご登場いただいて一言というか、最後のところでもいいですし、現状のところでもいいと思うのですが、ぜひやった方がいいと思っています。八王子の時も最後に集合写真とかを載せているのです。それで全部名前とか挙げているのですが、八王子はご専門でやっている人は本当に中心的な人だけで、あとは副業を持ちながらやっているような人で、大きくなったり小さくなったりしていつ

いるので、そういう人も全部をあげて、こういう記録ですから報告書でもそういう形で載せられたらいいと私は思っております。

それで最初に打ち合わせの時にどれぐらいのボリュームで作るのかという予算のこともありますし、ざっくり聞いたところ 200 ページ前後ではないかと、神楽の報告書を前提に、そのぐらいではないかということだったと思います。あとはページがあらかた決まったらページ割りをしてということになるか思います。こまで大体決まりましたけど先生方、何かご意見はございますか。この他思いついた時にぜひおっしゃっていただければと思いますが。

あとは、山中さん、橋本さん、ご参加ありがとうございます。大谷津です。文化庁から文化庁のお立場でご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(山中文化庁文化財調査官)

文化庁の芸能部門の山中と申します。今日参加させていただいております、よろしくお願いたします。すでに第一回の最初の一回で報告書の構成の方まで詳しくご議論いただいておりますので、こちらから具体的にコメントをしなくてもいろいろと決まっていっていらっしゃるという印象でございました。

おそらく文化庁の方からのコメントで求められているのが音楽の部分なのかと思うのですが、音楽のところは議論の中でも先生方の方から話がありましたけれど、人形歌舞伎でも構成要素の1つではあると思いますので調査の対象になってくるのかなと思います。どこまで詳しく音楽の部分を調査していくのかというところは、委員の先生方のご意見も頂戴しながら、例えば音楽の先生も調査の委員としてお1人加える必要があるのかとか、そういったところも含めて議論をしていただいた中で決めていくのかなという印象を受けました。文化庁の方で必ずしも音楽の委員の先生を入れてご調整くださいというところまでは何と言いますか強制的というところではなくて、この芸能を調査する上で必要な項目かどうかというところでご意見を伺って決めていくものかなと思っております。

今日主任が欠席しておりますのでまた部門の方の意見として改めて申し上げたいと思っております。今日の議論を伺った上でそのような印象を受けております。仮に音楽の方の調査も加えていくとなりますとおそらく構成の方も影響してくるかなと思いますのでその点は引き続きちょっと検討いただく部分になるのかなというのはこちらの方で思ったところがございます。以上でございます。橋本さんもし何かありましたらお願いいたします。

(橋本文化庁文化財調査官)

私の方から特に追加でということはないですが、構成案とかも最初に拝見していてこちらで気になっていた部分については本日の先生方の協議の中でほぼご指摘いただいたと思っております。引き続きよろしく願いいたします。

(大谷津委員長)

ありがとうございました。私は音楽を聞いてないので何とも言えないのですが、聞いてからこれは非常に特徴があるから多く残した方がいいとかを決めようと思うのですがいかがでしょうか。

(中村副委員長)

音楽っていうのは、気になるのは歌舞伎をやっていたということで、そちらの方まで入れるかどうかというのは難しいですけども、むしろ音楽よりも浄瑠璃の研究をされている先生を優先的にお願いしたいです。

(大谷津委員長)

浄瑠璃、語りですね。語り方を記録するかどうかというところだと思います。だから聞いてからかなと思います。というのは、私は相模人形芝居総合調査というのも同時並行で走らせていて、その構成案とかも向こうの事務局と作ったのですが、音楽を入れたのです。それで文化庁にヒアリングに伺った時に吉田調査官からは普通の義太夫だったら要らないという感じで、もう別にそれはそれで調査が進んでいるから要らないですけどどうですかと言われて、ただ、地元の人が伝えてきたものがあるので地元の義太夫連みたいなお組織があって、そこで継承してきたものだからそれはその地元のことは記録したいと言ったら納得してもらいました。だから地元特有なものがあれば音楽的な部分もそうだし組織とか子弟関係とかそういったものは残して記録した方がいいかと思います。だから音楽的なところの特徴があればということもありますけど。

(中村副委員長)

演目の中に浄瑠璃語りが入っているのは、1演目だけですか。ほとんどない感じか全部というか、前に出て語るのは1つだけでしたでしょうか。全部入っていますか。

(菊池委員)

一つだけ少ないのもありますけど全部入っています。

(中村副委員長)

ちょっと勘違い。そういうことだと浄瑠璃語りの方は。

(菊池委員)

こちらの方では浄瑠璃とは言わないです。

(中村副委員長)

何というのですか。

(菊池委員)

義太夫です。

(中村副委員長)

義太夫語りの部分であって、音楽という感じではないですね。

(下林委員)

義太夫というのは役者の次のセリフに繋げるものです。あらすじを言って次という感じですか。

(大谷津委員長)

台本があってそれに節とかついてますか。セリフも義太夫の台本があると思いますが、そこに節付けはありますか。言葉だけですか。

(中嶋委員)

おそらく採譜をするような音の調査というよりは語りに共通するものがあるのか、時代によって何か特徴とかそういったものを見つけていく作業になっていくと思います。やっぱりお持ちになってらっしゃる文書(もんじょ)を調べるところから始まっていくのかなと。

(大谷津委員長)

そうですね。音楽の付記がされているものがあれば、それが今のものと、他のものとはどう違うのかというところの観点で書いてもらう人がもし必要であれば、またそこをお願いするという形だと思います。探そうと思えば探せますので、それは拝見してまたご相談させていただくことにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(中嶋委員)

古い映像というのは存在していますか。戦後まもなくとか、昭和30年40年頃のものとか。あんまり機械を持っている人もいない時代、8ミリとか持っている人もいない時代ですけど、そうすれば比較できるものがもう文字しかなくなってしまうのでそのあたりどうでしょうか。

(木戸口委員)

古いのは、昭和57、8年頃のものはある感じで、開館当時の記録や30年ぐらいのところでしょうか。40年ぐらいあるのか。いわゆる古いのはないのかな。我々も探して

いても森口多里さんが書いていたのしかないのです。多里さんが書いた物の写真等しかないので、あとはなかったような気がしますけど。

(伊藤課長補佐)

旧東和町時代のものをちょっと探してみます。

(菊池委員)

昔の映像でもさっき言ったとおり昭和 58 年頃のものか。それ以前はどうだろうか。

(中村副委員長)

どっちにしても報告書を作る場合には映像記録とそれから今までのそういった書類は全部載せなければいけないと思います。それを探さなければいけない。

(大谷津委員長)

あとは写真です。見た人の写真でもいいと思います。舞台写真とか、保存会の方々だけではなくて、市内に声がけして、ぜひ博物館等で集めていただければと思います。

(木戸口委員)

県博に居たときなのですが、いくつかの小さい写真にはなりますが、それは使えると思います。ただ3つほど出している中の1冊の出版会社がなかなか OK を出さないというので、ちょっとその会社とはある程度厳しいかもしれないです。それ以外は大丈夫でしょう。森口多里さんが書いたものであるとか、それから写真であるとか、その件についてはもう全部岩手県博の方で譲渡を受けているのでこの資料は大丈夫です。

(大谷津委員長)

「岩手県の民俗芸能」を書いた人ですね。

今まで発掘されてなかったようなものを表に出す形で全容を盛り込めたらいいと思います。資料調査が何より大変で、ぜひ博物館で頑張ってください、それが今やれば保存にも多分繋がっていきますから、ぜひ頑張ってくださいお願いしたいと思います。どんなことが出てくるか実際に楽しみです。

あといただいた資料などを読んでみると、嵐美鳥時代の碑とかもあるんですね。そういったものがやはりちゃんといましたというところの証拠があるので写真を撮り直して載せられると思います。今日決められることはそのぐらいかなと思いますが佐々木さんいかがでしょうか。事務局にお返ししてもよろしいですか。今後の予定ですね。いかがでしょうか。

(下林委員)

今後の予定は毎月 17 日、成島振興センターで午後 2 時からありまして、今月の 23 日

が地元・倉沢人形歌舞伎伝承館でこれも午後2時から公演ということで。それで今年は終わりです。オファーがあればできますがそのような感じでございます。演目は最初に三番叟をやって、戸隠山は岩見重太郎狒々退治、傾城阿波の鳴門・巡礼歌の段、最後は花見踊の景色の4演目です。どちらもその予定でございます。

(大谷津委員長)

ありがとうございます。定期公演は11月23日ということでも、他にもお呼びがかかれば上演されているのですね。

(下林委員)

そうです。花北振興センターは7月21日、今月の3日が湯口のコミュニティの方でやりました。

(大谷津委員長)

年に何回ぐらい公演されるのですか。

(下林委員)

大体4,5回くらいです。多い時は5回くらいでしょうか。

(大谷津委員長)

そういう今の興行状況もぜひ1年のサイクルとして載せられるといいと思いますし、またそういう機会をぜひ拝見に上がりたいと思います。ありがとうございます。

(下林委員)

来年の予定はまだ年が明けてからです。定期公演は11月23日になっておりますがそれ以外は未定ということです。

(大谷津委員長)

はい決まりましたらぜひ情報提供をお願いいたします。ありがとうございました。

そうしましたら、23日の見学のご予定というか調査調整ということについてはいかがでしょうか。。

(下林委員)

大丈夫です。伝承館は入れるのはせいぜい80人ぐらいなのです。広げれば外からも雨戸開けて見えますが、寒い時期ですからそれはちょっと無理です。午後2時からですから、もう昼食べたら大体毎年満員になります。県外から岩手の紅葉を見ながら、何かやっているなということで、こっちに来たりもします。結構よそからの方が多いです。午前中だったら色々対応できます。

(中村副委員長)

文書(もんじょ)類のボリュームだけは見たいと思っています。

(菊池委員)

文書(もんじょ)ですが、我々は読むことができないのです。もうきちっと重ねているだけです。

(中村副委員長)

タイトルだけでも写真に撮って、一応どんなものがあるのかだけは見たいです。まだ中身を見るまではできないので。それを午前中にお伺いして写真を撮らせてもらって、どんなタイトルのものというか、題名を確認したいです。中身は調べることはできないので、とにかくどれぐらいのものがあるか、どのようなものがあるか、種類とか、それからボリュームを調べて、それによっては増員が必要かもしれないし、読める人を頼むとか、何かしらしないと、こなせない可能性ありますので。ですから、こちらの方で広げて写真を順番にとって、どれくらいあるかだけでも押さえておきたいという気はしてまして、お邪魔すると思いますのでその時はよろしくお願いします。

(大谷津委員長)

表紙だけでも写真でとっていただいて全体を把握できるところはありがとうございます。早速段取りしていただいて助かります。そうしましたら予定がほぼ決まりましたが、これでよろしいでしょうか。岩手県教育委員会の佐藤さんいかがですか。何かご意見等ございましたらお願いします。

(岩手県教委佐藤社会教育主事補)

岩手県の佐藤です。本日お招きいただきましてありがとうございました。まず今回がキックオフということで、いちから計画の方を構築していくというところで結構皆様からいろいろと意見も出していただいて、次に繋がる会合だったのではないかと考えておりましたので神楽報告書に引き続き、皆様のその活動の方を、県として支援できる部分は支援していきたいと思っておりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

(大谷津委員長)

よろしくお願ひいたします、こちらもお世話になりますお願ひいたします。そうしましたら事務局にお戻ししてもよろしいでしょうか？では交代させていただきます。

(伊藤課長補佐)

はい、ありがとうございます。大谷津委員長、スムーズで大変的確な進行それからいろいろご助言いただきまして大変ありがとうございました。

委員の皆様にもいろいろご意見をお伺いすることができました。おかげさまで今日の

協議事項をだいたいまとめられてほっとしているところです。ありがとうございました。
5番その他に移ります。皆様から何かございますか。

(意見・質問等なし)

[佐々木係長より事務連絡]

(5) 閉会

(伊藤課長補佐)

それでは以上をもちまして令和6年度第1回倉沢人形歌舞伎調査委員会を閉会いたします。皆さん本当に今日はありがとうございました。